

ラフ用無人芝刈機

共栄社が共同研究

LiDARを搭載

ゴルフ場の人手不足対策

(株)共栄社(林秀訓社長・愛知県豊川市美幸町1の26)と、リソルグループのリソル総合研究所(株)は、LiDARを搭載したラフ用無人芝刈機に関する共同研究を行い、千葉大学大学院工学研究学院知能機械システム室・大川一也准教授の研究協力のもと、その成果を活用して研究機を開発した。共栄社では、この研究で得た知見を活かし、新たに実用可能な無人3連ロータリーモア「UGM170」(仮称)の商品開発を行い、2023年を目途にテスト販売を行う予定。



林社長

共栄社は、少子化問題が社会問題化し始めた10数年前より無人芝刈機の研究を開始。2011年より、人口の減少によるゴルフ場の管理作業者の人手不足や技術伝承の問

リソル総合研究所と 23年目途にテスト販売

題が将来的に起きることを見込み、ICT技術を応用した無人芝刈機を開発し、2019年9月よりフェアウェイモアの無人芝刈機「ULM270」をテスト販売している。今回開発したラフ用無人芝刈機には光

センサー技術のLiDARを採用。LiDARを搭載することにより、木々に覆われる場所やラフなど、さほど刈り込み精度が求められない場所での無人走行が可能となり、様々なシーンでのゴルフ場管理の無人化が可能となる。

「バロネス」ラフ用無人芝刈機を使用することにより、1人で複数の作業が可能となり、作業員の人手不足の解消につながる。また、休暇取得や突然の退職による作業シフトへの影響も軽減でき、働き方改革の取り組みにもなるなど、ゴルフ

共栄社がリソル総合研究所との共同研究で開発した「ラフ用無人芝刈機」



場や各種スポーツターフの管理現場に様々な波及的な効果をもたらすと見られている。同社では、「バロネス」ラフ用無人芝刈機が、「作業員の人手不足」とい

う、ゴルフ場の抱える大きな課題を解決する商品と位置付け、2023年を目途に製品名・無人3連ロータリーモア「UGM170」(仮称)としてテスト販売を行う予定。